

禁煙支援者の技術レベルと禁煙支援効果の分析

ハギモト アキヨ 明子* マスイ シズ コ 増居志津子* ナカムラ マサカズ 中村 正和*
バイヨ ショ コ 馬醫世志子^{2*} オオシマ アキラ 大島 明^{3*}

目的 禁煙成功に関連する要因は、喫煙者側の要因は検討されているが、禁煙を支援する側の要因は検討されていない。本研究では、支援者の禁煙支援技術が禁煙にどう影響を及ぼすか分析した。

方法 全国の6職域において、1998年1月～99年9月に健診を受診し、支援者から禁煙支援を受けた喫煙者858人を対象者とした。禁煙の支援者は23人であった。対象者に呼気CO濃度、尿中ニコチン代謝物測定とそのフィードバックを行い、支援者による禁煙支援を行った。禁煙開始日を設定した者には、電話によるフォローアップを3か月間で4回行った。追跡調査として6か月、1年後にアンケート調査を行い、禁煙していると答えた者には、呼気CO濃度測定もしくは家族や同僚の証言により禁煙を確認した。評価指標は、6か月後時点で7日以上禁煙している「6か月後断面禁煙率」と、1年後時点で6か月以上禁煙している「1年後継続禁煙率」の2つを設定した。支援者の禁煙支援技術評価は、模擬喫煙者に禁煙支援を行い、その様子をビデオテープに撮影し、評価項目に従って評価、点数化した。技術レベルの違いによる禁煙支援効果を検討するため、支援者を禁煙支援技術評価の点数（0-24点）により、技術レベルを低群（0-14）、中群（15-17）、高群（18-24）に分け、技術レベルとその効果の関係を分析した。

結果 支援者を技術レベル別にみると、低群4人、中群11人、高群8人となり、各技術レベル群が禁煙支援を行った喫煙者数は、低群190人、中群344人、高群324人となった。6か月後断面禁煙率は、低群2.1%、中群4.7%、高群7.4%（累積 χ^2 検定 $P < 0.01$ ）、1年後継続禁煙率は、低群1.1%、中群3.2%、高群4.6%（ $P < 0.05$ ）であった。多重ロジスティック分析の結果、低群と比較した中群の6か月後断面禁煙率および1年後継続禁煙率のオッズ比は、各々2.33（95%CI: 0.75-7.28）、3.07（0.65-14.54）であった。低群と比較した高群のオッズ比は、各々3.66（1.21-11.04）、4.86（1.06-22.28）であった。さらに、支援者の技術レベル以外の特性を補正することを目的にマルチレベル分析を行ったが、多重ロジスティック分析とほぼ同様の結果となった。

結論 支援者の禁煙支援技術レベルが高いほど、より高い禁煙支援効果が得られることが示された。

Key words : 禁煙, 禁煙支援, 禁煙支援技術評価, 職場健診, 介入研究, マルチレベル分析

* 大阪府立健康科学センター健康生活推進部

^{2*} 特定・特別医療法人慈泉会相澤病院

^{3*} 大阪府立成人病センター調査部

連絡先：〒537-5531 大阪府東成区中道 1-3-2

大阪府立健康科学センター 萩本明子